

患者シミュレータを利用した学内フィジカルアセスメント実習の構築

○田島 純一¹, 小川 潤子¹, 小川 ゆかり¹, 小清水 治太¹, 小島 可寿子¹,
吉井 智子¹, 渡邊 美智留¹, 加藤 眞由美^{1,2}, 加村 潤^{1,3}, 田村 祐輔^{1,4},
宮川 昌和^{1,5}, 三原 潔¹, 小野 秀樹¹(¹武蔵野大薬, ²聖母病院薬, ³日本調剤, ⁴さくら薬局, ⁵エコ薬局)

【目的】長期実務実習において学生がより効果的に学習するためには、大学において実務実習に必要な知識・技能・態度の確実な習得が必要である。また、近年薬剤師におけるフィジカルアセスメントの実践が注目されており、学内実習においても実践するための教育が望まれている。武蔵野大学薬学部において、4年次前期に行われる学内実習の一環として患者シミュレータ (i-Stan) を利用したフィジカルアセスメント実習を実施したので、これを報告する。

【方法】4年次の学内実習において、学生127人を12班に分けて、1班ずつ i-Stan を利用して、健常なモデルに循環器系の医薬品を投与した際の血圧・脈拍の変化を予想させた。その後、薬剤投与した i-Stan の脈拍を学生自身が測定することにより、その変化を観察させた。血圧についてはモニターの数値を確認させた。その他、水銀血圧計を用いた血圧測定や装着式採血静注練習キット“かたんくん”を用いた採血実習等を実施した。実習終了後に5段階無記名アンケートを実施し、実習効果の評価を行った。

【結果・考察】i-Stan を用いた実習では、「面白かった」または「やや面白かった」と回答した学生が約87%であり、「医薬品による血圧・脈拍の変化を理解できたか」では「できた」または「ややできた」と回答した学生が約82%であった。また、「水銀血圧計を正しく使用できたか」については「できた」または「ややできた」と回答した学生が約75%であった。採血実習ではうまく採血できない学生もいたが、注射針の取扱い等には役立ったようであった。